## 職業実践専門課程等の基本情報について

### 15 변화	設置者名	学坛		置認可年月	日 校長	長名	_	400.0000	所在地						
特別を表す   特別を表す   特別を表す   で		J+1X	昭和	1162年3月27	日 中村	英詞			4番地1他						
日本	学校法人片柳学園		設	立認可年月	日 代表	者名	(電話)		所在地						
選出の担任   選出の日本			昭和	031年7月10	日 千葉	茂			23番22号						
	八冊						(電話)	03-3732-1111		c 帝	* 声明钿 和 钢 宁 左 庄				
### 1990 (1990				£B	ゲームクリエイター科			-							
		1月干	141十一寺  1部1	T±	ゲームCGデザイナー	ーコース			十成30(2016)平)	× 7'	和 5(2021)平度				
### 1	子科の目的シ、														
### (1997年 1997年	学科の特徴(取得可能な 資格、中退率 等) 中:	退率:3%													
自然	修業年限	昼夜	全課程の修了	了に必要な終											
2 本名を設立者				単位いず		960		+							
200 人の内容 200 人の内容 3人の内容 3人の内容 2 人の内容 2 人の 3 当	·	#.#.#	18/1	NT AME AL SEL		15万244年中			丰位	丰田	丰位				
	生使総正貝	生徒美	(A)	留子生勢	((生徒美貝の内奴)(B)	笛子生品	明吉(B/A)	中 返 华							
# 政務等の保護 (20) 1 1 人						2		3 %							
# (株理等の) 1.5				:				=							
		就職者数(	(E)	:	9		人	<del>-</del> -							
製造機能の機能				:				-							
					(F/E)			-							
# 2 中央 12		卒業者に	ちめる就職者の	の割合 (E/C			%	-							
■ またの他  (今年 6 年度卒業者に関する命わ7年5月1日時点の情報)  ■ またの機会、業界等 (特定を表す程) ・ 持来会社ウインス、特求会社ウインズ、特求会社のリークアンドリバー、特求会社イマージュ、REALITY情求会社、持求会社のEMBA、有限会社科デジタル工図店  第三者による 「新年日本・大きの場合、教育人は以下について住産配数 「新年日本・大きの場合、教力人は以下について住産配数 「新年日本・大きの場合、教力人は以下について住産配数 「新年日本・大きの場合、教力人は以下について住産配数 「新年日本・大きの場合、教力人は以下について住産配数 「新年日本・大きの場合、教力人は以下について住産配数 「新年日本・大きの場合」 「おいまた」」  「大きの場合、「おいまた」 「大きの場合教育」 「おいまた」」 「大きの場合教育・大きの場合を表現した実施・実営・実法の授業情報 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」 「おいまた」」 「おいまた」」 「おいまた」 「おいまた」」 「おいまた」 「おいまた」 「おいまた」」 「おいまた」					82			-							
(今前 6 年度卒業計に割する令和7年5月1日計点の情報)  ■主な収穫丸、果邦等 「内部の94番年記・カンエ・アントフ、株式会社のインス、株式会社のリークアンドリバー、株式会社イマージュ、REALITY株式会社、株式会社のEMMA、有限会社株デジタル工資店  第三世による 学校計画 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合、例えば以下(ついては毛形様 新名の場合の例えば以下(ついては毛形様 新名の場合の例えば以下(ついては毛形様					U		٨	=							
■ 全立政策元、東京等															
■ 全立政策元、東京等															
(会和は東帝東京) 株式会社のエンファウェア、株式会社ウインス、株式会社ウインス、株式会社イマーシュ、RRAITY株式会社、株式会社のEMBA、有限会社株デジタル工房店 有		(令和	6 4	年度卒業者	に関する令和7年5月1日時	点の情報)									
# 「	■:	主な就職労	七、業界等												
東京都による				_ 14-504			44-5-0-41								
第二帝による 学校評価  ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体、特定書を検討論人 私立等門学校 受害年月: 平成心年3月  『社団/中心の	株	式会社フロ	ロマ・ソントウェ	ア、株式会社	まウインズ、株式会社クリー	-クアンドリバ・	一、株式会社	イマージュ、REALITY株式会	社、株式会社GEMBA、有	限会社林デジタル工房店					
第名の基本   野福田県   野田田県   田田県   田		民間の評価	西機関等から第	第三者評価:				有							
新田田体 等担保所の機能 (	<b>弗二白による</b>	有の場合、	例えば以下に	こついて任意	記載										
対抗なく/www.rese.as.ip./department/design/sametrestor/dynamy/	学校評価		評価団体:	特定非営利	活動法人 私立専門学校	受審年月:	平成26年3月	I							
	<b>ルきかな</b> の			47 BT IM 1917 D	IX 119				7. Z · 70KE						
(A.単位時間による算定) 総授業特数	ホームページ htt	tps://www.	neec.ac.jp/dej	partment/de	esign/gamecreator/4years/	/									
総接業時数    おから企業等と連携した実際・実富・実技の授業時数   3.570 単位時間   うち企業等と連携した実際・実富・実技の授業時数   0 単位時間   うち企業等と連携した機の実験・実置・実技の授業時数   0 単位時間   うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   0 単位時間   うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   0 単位時間   うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   0 単位時間   0 単位初に北名事業と連携したが変更をと連携したが受験を表面   単位   0   0 単位初に北京国の授業時数   単位   0   0   0 単位   0   0   0   0   0   0   0   0   0	URL					_									
35企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	(A					_									
うち企業等と連携した演習の授業時数   3.369 単位時間   うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   3.369 単位時間   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   0 単位時間   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   0 単位時間   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   0 単位時間   0 単位   0 単位   0 単位   0 単位   0 全点等と連携した実験・実習・実技の授業時数   単位   0 全点等をと連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   0 ち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   0 ち企業等と連携した必修の変数の授業時数   単位   0 ち企業等と連携した必修の変数の授業時数   単位   0 ち企業等と連携した必修の変数の授業時数   単位   0 生産業を連携した必修の変数の授業時数   単位   0 生産素を連携したインターンシップの授業時数   単位   0 生産素を連携したがの変数の授業時数   単位   0 生産素を連携したインターンシップの授業時数   単位   0 生産素を連携したインターンシップの授業時数   1 生 位   0 生産素を連携したインターンシップの授業時数   0 単 位   0 生産素を連携したインターンシップの授業時数   0 単 位   0 生産素を対象に使事したが応息を表も、できたな変素を連携したインターンシップの授業時数   0 生 位		A:単位時間	(による算定)			_									
うち必修探集神数   3,390 単位時間   うち必保実計数   3,390 単位時間   うち企業等と連携した必修の演賛・実質・実技の授業時数   0 単位時間   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   0 単位時間   0 単位   0 単位   0 単位   0 手企業等と連携した実験・実置・実技の授業時数   単位   0 手企業等と連携した姿態の演習の授業時数   単位   0 手企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   0 手企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   0 手企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   0 手企業等と連携したがクランシンプの授業時数   単位   0 手企業等と連携したがクランシンプの授業時数   単位   0 手を参写を同じまりたまであった。当該専門課題の修業年限   (専修学校設置基準第41条第1項第1号)   3 人   2 学士の学位を有する者等   年修学校設置基準第41条第1項第2号   2 人   3 高等学校設論等経験者   年修学校設置基準第41条第1項第3号   0 人   0 手を学校設置基準第41条第1項第3号   1 人   0 その他   年修学校設置基準第41条第1項第3号   1 人   0 をの他   年修学校設置基準第41条第1項第3号   2 人   計										3,570 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数			総授業時数	うち企業等と	連携した実験・実習・実技・										
うち企業等と連携した実習等 の実施状況(A、BLVザ れかに記入)   (5):単位数による算定)   (5):単位数    (5):金業等と連携した影響・実置・実技の授業時数   単位   (5):金業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   単位   (5):金素等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   単位   (5):金素等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   単位   (5):金素等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   単位   (5):金素等と連携した必修の実際の授業時数   単位   (5):金素等と連携した必修の実際を運動する   単位   (5):金素等と連携した必修の実際を選集を第41条第1項第1号)   (5):金素等と連携したが必要を連携したが多の実際を連携したが多の実際を連携したが多の実際の能力を表   (5):単位数に必要を連携したが多の実際の能力を表   (5):単位数によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに			総授業時数							690 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、BUY れかに配入)    (B:単位数による算定)			総授業時数	うち企業等と	連携した演習の授業時数	の授業時数				690 単位時間 0 単位時間					
企業等と連携した美容等 の実施状況(人) 18:単位数(こよる算定)   総授業時数   単位 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数   単位 うち企業等と連携した演習の授業時数   単位 うち企業等と連携した演習の授業時数   単位 うち企業等と連携した必修の実験・実置・実技の授業時数   単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位 (うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数   単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)   単位 (うち企業等と連携したがあったが、一、当該専門課程の修業年限 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)   と当該業務に従来した期間とを通見して六年以上となる者   ② 学士の学位を有する書等   ② 学士の学位を有する書等   ③ 高等学校設置基準第41条第1項第3号)   ○ 人 ④ 修士の学位文は専門職学位   ③ 高等学校設置基準第41条第1項第3号)   ○ 人 3計   上記②~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有			総授業時数	うち企業等と	連携した演習の授業時数	の授業時数	骨・実技の授製	<b>唯時数</b>		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間					
の実施状況(A, BLVず れかに記入)  (B:単位数による第定)  総授業時数  「うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数  「お企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数  「お企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数  単位  「うち企業等と連携した必修の演習の授業時数  単位  「うち企業等と連携したの修の演習の授業時数  単位  「うち企業等と連携したインターンシップの授業時数  単位  「うち企業等と連携したインターンシップの授業時数  「は事はたれるの第四の授業時数  「のままする教育等に従事した者であって、当族専門課程の修業年限  「事修学校設置基準第41条第1項第1号)  「事修学校設置基準第41条第1項第2号)  「本修士の学位を有する者等  「事修学校設置基準第41条第1項第2号)  「本修士の学位文は専門職学位 「専修学校設置基準第41条第1項第2号)  「本修士の学位文は専門職学位 「専修学校設置基準第41条第1項第2号)  「本修士の学位文は専門職学位 「専修学校設置基準第41条第1項第2号)  「本修士の学位文は専門職学位 「専修学校設置基準第41条第1項第5号)  「本修士の学の学表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表			総授業時数	うち企業等とうち必修授業	連携した演習の授業時数 き時数 うち企業等と連携した必修	の授業時数		<b>美時数</b>		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間					
総授業時数 単位			総授業時数	うち企業等とうち必修授業	連携した演習の授業時数 終時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 の実験の演習の授	業時数	<b>《時数</b>		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず		総授業時数	うち企業等とうち必修授業	連携した演習の授業時数 終時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 の実験の演習の授	業時数	<b>《時数</b>		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間					
おして記入   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等とうち必修授業	連携した演習の授業時数 終時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 の実験の演習の授	業時数	<b>影時数</b>		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間					
うち必修授業時数 単位	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	うち企業等とうち必修授業	連携した演習の授業時数 終時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数)	業時数	<b>影時数</b>		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数   単位   うち企業等と連携した必修の演習の授業時数   単位   単位   である教育等と連携した必修の演習の授業時数   単位   単位   単位   である教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限   で事修学校設置基準第41条第1項第1号   である教育等に従事した期間とを通算して六年以上となる者   で事修学校設置基準第41条第1項第2号   である教育等に従事した期間とを通算して六年以上となる者   で事修学校設置基準第41条第1項第2号   である教育等に従事した期間とを通算して六年以上となる者   で事修学校設置基準第41条第1項第2号   である教育を表現した。	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数 : : : : : : : : : : : : :	うち企業等とうち必修授業(うち企業等	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数) の授業時数	業時数	<b>影時数</b>		690 単位時間					
対して記入   一方も企業等と連携した必修の演習の授業時数	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等とうち必修授業(うち企業等をうち企業等とうち企業等と	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数) の授業時数	業時数	<b>影時数</b>		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 単位  ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 ) うち企業等と うち企業等と うち企業等と うち必修授署	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 時数	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 での授業時数) の授業時数	業時数			690 単位時間					
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) ② 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) ② 人  ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 1 人 5 その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 ) うち企業等と うち企業等と うち企業等と うち必修授署	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 おち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数 の授業時数	業時数			690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 3,390 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 3 人 と当該業務に従事した規間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計 8 人	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等と うち企業等 うち企業等 うち企業等と うち企業等と うち必修授業	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数	業時数 『・実技の授』 業時数			690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 3,390 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 3 人 と当該業務に従事した規間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計 8 人	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等と うち企業等 うち企業等 うち企業等と うち企業等と うち必修授業	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数	業時数 『・実技の授』 業時数			690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 3,390 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 3 人 と当該業務に従事した規間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 1 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計 8 人	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等と うち企業等 うち企業等 うち企業等と うち企業等と うち必修授業	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数	業時数 『・実技の授』 業時数			690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 3,390 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者  ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 2 人  ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人  ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人  ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計  上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3∶単位数に	総授業時数	うち企業等と うち企業等 うち企業等 うち企業等と うち企業等と うち必修授業	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修	の授業時数 多の実験・実習 多の演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数	業時数 『・実技の授』 業時数			690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 3,390 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
<ul> <li>教員の属性(専任教員について記入)</li> <li>③ 高等学校教諭等経験者</li> <li>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</li> <li>① 人</li> <li>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</li> <li>1 人</li> <li>⑤ その他</li> <li>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</li> <li>2 人</li> <li>計</li> <li>8 人</li> </ul>	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3:単位数に	総授業時数 よる算定) 総授業時数 ① 専修学校・	うち企業等と うち必修授業 うち企業等 うち企業等と うち企業等と うち企業等 (うち企業等	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 きち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必り うち企業等と連携した必り こまり、 、 こまり、 、 、 こまり、 こまり、 こまり、 こまり、 、 こまり、 こまり、 こまり、 こまり、 こまり、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	の授業時数 多の実験・実置 多の演習の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数	楽時数	<b>*</b> 時数	12)	690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
<ul> <li>教員の属性(専任教員について記入)</li> <li>③ 高等学校教諭等経験者</li> <li>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</li> <li>① 人</li> <li>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</li> <li>1 人</li> <li>⑤ その他</li> <li>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</li> <li>2 人</li> <li>計</li> <li>8 人</li> </ul>	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3:単位数(:	総授業時数 こよる算定) 総授業時数 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程に従事した。	連携した演習の授業時数 連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必備 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必婚 を修了した後、学校等に起 を修了した後、学校等に報 者であって、当該専門課程	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	楽時数	<b>*</b> 時数	1号)	690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
教員の属性(専任教員について記入)  ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人  ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計 8 人	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3:単位数(:	総授業時数 こよる算定) 総授業時数 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程に従事した。	連携した演習の授業時数 連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必備 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必婚 を修了した後、学校等に起 を修了した後、学校等に報 者であって、当該専門課程	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	楽時数	<b>*</b> 時数	1号)	690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
(専修学校設置基準第41条第1項第4号) 1 人 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人 計 8 人 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、Bいず	3:単位数(:	総授業時数 による算定) 総授業時数 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等と うち企業等と うち企業等と (うち企業等と の専門課程 にで従事した期間	連携した演習の授業時数 連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必備 と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技・ 連携した演習の授業時数 であった演習の授業時数 であった演習の授業時数 と連携した必備 うち企業等と連携した必備 うち企業等と連携した必備 のも、学校等にお をあって、当核専門課程 間とを通算して六年以上と記 のは、これにより、 を修了した後、学校等にお を修了した後、学校等にお をを通算して六年以上と記	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	撃時数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	类時数 学校設置基準第41条第1項第		690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 単位時間 単位					
<ul> <li>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</li> <li>計 8 人</li> <li>上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有</li> </ul>	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、BL)ず れかに記入)	3:単位数(:	総授業時数 こよる算定) 総授業時数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程に で、期に 位を有するる	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必慎 うち企業等と連携した必慎 うち企業等と連携した必見 と連携したインターンシップ 連携した演習の授業時数 きち企業等と連携した必慎 うち企業等と連携した必見 うち企業等と連携した必見 さを適りした後、学校等にお 首であって、当該専門課程 間とを通算して大年以上との 告等	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	集時数 『・実技の授』 業時数 (専修	学校設置基準第41条第1項第	2号)	690 単位時間 0 単位時間 3.390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 2 単位 単位 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4					
計 8 人	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、BLvず れかに記入) (日	3:単位数(:	総授業時数 (1) 事を教業務に (2) 第一等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程たが の専門課程を がより 位を有する の 教諭等経験	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必 を修了した後、学校等にお 者であって、当該専門課程 間とを通算して六年以上との 各等	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	楽時数 『・実技の授』 楽時数 (専修 (専修	学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	2号)	690 単位時間 0 単位時間 3.390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位					
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、BLvず れかに記入) (日	3:単位数(:	総授業時数 (こよる算定) 総授業時数 (① 専修教業務に (② 常 高 等 学 校・ (④ 修士の学	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程を の専門課程を がより 位を有する の 教諭等経験	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必 を修了した後、学校等にお 者であって、当該専門課程 間とを通算して六年以上との 各等	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	乗時数 『・実技の授』 ・実技の授 ・実体の ・実体・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) 4号)	690 単位時間 0 単位時間 3.390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 人 単位 単位 人 単位 人 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上					
	企業等と連携した実習等 の実施状況(A、BLvず れかに記入) (日	3:単位数(:	総授業時数 (1) 専修学校等に (3) 修士の学校・ (5) その他	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程を の専門課程を がより 位を有する の 教諭等経験	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必 を修了した後、学校等にお 者であって、当該専門課程 間とを通算して六年以上との 各等	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	乗時数 『・実技の授』 ・実技の授 ・実体の ・実体・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) 4号)	690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 3 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単					
	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) (B	3:単位数(:	総授業時数 (1) 専修学校等に (3) 修士の学校・ (5) その他	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程を の専門課程を がより 位を有する の 教諭等経験	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必 を修了した後、学校等にお 者であって、当該専門課程 間とを通算して六年以上との 各等	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	乗時数 『・実技の授』 ・実技の授 ・実体の ・実体・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) 4号)	690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 3 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単					
9 の名を想定)の数	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) (日	3:単位数(:	総授業時数 (1) 専修学校等に (3) 修士の学校・ (5) その他	うち企業等と うち必修授業 (うち企業等 うち企業等と うち企業等と の専門課程を の専門課程を がより 位を有する の 教諭等経験	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携したインターンシップ 連携した実験・実習・実技 連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必負 うち企業等と連携した必 を修了した後、学校等にお 者であって、当該専門課程 間とを通算して六年以上との 各等	の授業時数 の実験・実習 をの演習の授 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 の授業時数 いの修業年時数 いの修業年	乗時数 『・実技の授』 ・実技の授 ・実体の ・実体・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) 4号)	690 単位時間 0 単位時間 3,390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 3 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単					
=	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) (B	3:単位数に	総授業時数  (1) まる算定) 総授業時数  (1) 専移教業 子の学校等に の学校・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	うち企業等と うち必修授乳 うち企業等 うち企業等と うち企業等と うち企業等と では事した期 位を事件と期 位を事件を な物等経験 位 を ないで、 ののに、 ののに、 ののに、 のので、 のので、 のので、 のので、 のの	連携した演習の授業時数 時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携したの優と連携したの優と連携した演習の授業時数 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必修 うち企業等と連携した必ら うち企業等と連携したの優 うち企業等と連携したの優 うち企業等と連携したの優 うち企業等と連携したの優 を修了した後、学校等にお 首であって、当該専門課程 間とを通算して六年以上とが 香等 者 職学位	の授業時数  の実験・実習をの実験・実習をの演習の授業時数  の授業時数  の授業時数  の授業時数  の授業時数  のの授業時数  にいてその担  ののなる者	業時数 『・実技の授業 ・実物 『専修 『専修 『専修	学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第 学校設置基準第41条第1項第	2号) 3号) 4号) 5号)	690 単位時間 0 単位時間 3.390 単位時間 690 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上					

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ゲーム分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。またゲーム分野に関し、年度毎に既存のカリキュラム について総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・ 方法等について検証する。

## (2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構

)、〜 。。 本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己 点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度の カリキュラム編成へ反映する。

### (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

△和7年4日1日田左

名 前	所 属	任期	
小澤 賢侍	公益財団法人 画像情報教育振興協会 セクションチーフ	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	<u>種別</u> ①
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	3
大戸 龍太郎	株式会社ウインズ 専務取締役	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	3
中村 英詞	日本工学院八王子専門学校 校長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	_
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育·学生支援部 部長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	-
山口 恵美子	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	_
大圖 衛玄	日本工学院八王子専門学校 科長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。) ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

  - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者

  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

## (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年09月04日 10:00~12:00 第2回 令和7年03月21日 10:30~12:30

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ゲーム業界が求める人材像や即戦力として必要なスキルについてヒアリングを行い、その内容を次年度のカリキュラムに反映させることで、業界の動向や今後の展望を中長期的 に検討している。

昨年度の委員会では、業界で主流となっているツールや技術の変化に対応する必要性が強調された。特に、PhotoshopよりもSubstance Painterの使用頻度が高く、早期からの習 

### 2、「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

くりえば、アストルのようにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派 遺講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

## (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ゲーム制作に必要となる最新の知識、技術、制作管理能力を有している講師の派遣により、ゲーム業界のトレンドに合ったチーム制作体制やゲーム制作方法等、実践かつ効率的な手法を取り入れることが可能となっている。また、実習を通して学んだ内容に対し、業界目線での評価を受けることが出来る。

## (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
実践実習1A		プロジェクトチームを結成してゲーム 作品を制作するなど、実践的な実習を 行います。	株式会社ミノリ 株式会社ワー
実践実習2A	講師が一部の授業のみ	プロジェクトチームを結成してゲーム 作品を制作するなど、実践的な実習を 行います。	株式会社ミノリ株式会社ワー
実践実習3A		プロジェクトチームを結成してゲーム 作品を制作するなど、実践的な実習を 行います。	株式会社ミノリ株式会社ワー
実践実習4A		プロジェクトチームを結成してゲーム 作品を制作するなど、実践的な実習を 行います。	株式会社ミノリ株式会社ワー
卒業制作	2. 【校内】企業等からの 講師が一部の授業のみ を担当	4年間の集大成として作品制作を行います。	株式会社ミノリ株式会社ワー

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

## (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規程における目的に沿い、技術カンファレンスや展示会等への参加を通じて、ゲー ムクリエイタ一育成のための最新技術の理解を深める。また、学科・カレッジ・学校単位での教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや 学科運営に反映させる。

### (2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

一般社団法人デジタル 近未来のノンリニアな映像コンテンツを創造するために、いま 連携企業等:サイネージコンソーシアム常務理事 江口靖二 研修名: 知っておくべきこと

ゲートクリエイター科・

対象:ゲームクリエイター科四 **令和6年9月24日(火)** 期間:

年制 教員

欧州DVB-NIPを例に、放送とインターネット融合によるノンリニアでゲーム的な映像コンテンツの最新動向と学生が将 内容

来直面する、エンターテインメントのこれまでにない進化に対応するためのスキルについて。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

東京工科大学 研修名: 合理的配慮研修 医療保健学部

連携企業等:

ームクリエイター科・ 令和6年11月19日(火) 期間: ゲームクリエイター科四 対象: 年制 全教員口

2024年から義務化された合理的配慮の概要、重要性、そして本校での取り組みについて理解を深め 実際の場面で自信を持って対応できるようになるための一歩。口

## (3)研修等の計画

内容

①専攻分野における実務に関する研修等

\_\_\_\_ 一般社団法人コンピュー 「CEDEC2025」(コンピューターエンターテイメントデベロッパーズ 連携企業等: タエンターテインメント協 研修名· カンファレンス)

会 (CESA)主催

ゲームクリエイター科・ 対象:ゲームクリエイター科四 期間: **令和7年7月22日(水)~7月24日(金)** 年制 教員

ゲーム・コンテンツ業界の現状と展望を確認する。最新技術についての知見を得る。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

「効果的な授業のための 生成AI・ICTの活用について」 株式会社クリーク・アン

連携企業等: ド・リバー社 研修名: 東京大学 中澤明子氏

期間: 令和7年8月6日(水) 対象: 全教員

生成AI・ICTツールの基礎と最新動向、教員の業務効率化における活用事例、授業における生成AI・ICTツールの活

内容 用方法と中高でのAI教育事例 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者 として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

### (1)学校関係者評価の基本方針

た、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

## (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

というが
学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標
(2)学校運営
(3)教育活動
(4)学修成果
(5)学生支援
(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集
(8)財務
(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献

### ※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応(活用)方法は以下のとおりです。

| 1. 留学生支援・国際交流の充実 |評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求められています。また、英語圏以外の国々からの学 |生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が望ましいとの意見がありました。

2. 教育内谷・子音環境の问上 委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現 場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。

| 3. 地域連携・社会とのつながり |地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。また、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出 や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。

#### 4. 多様な学習者・進路支援への対応

委員からは、総合型入航を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求められています。

の・チェスは、アンアル・パンのステント 学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教職員の対応力向上も重要視されています。また、健 康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられています。

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

- 日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します。 地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。 教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の資を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。 社会人や事を日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びローズに応える体制づくりを今後の課題としていま メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長(セントラルエンジェアリング株式会社)	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	卒業生/企 業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務 局長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(<u>5) 学校関係者評</u>価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他(

URL:https://www.neec.ac.jp/public/ 令和7年9月30日 TIRI ·

公表時期:

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

))

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

(17) 定来寺の子校関係有に対する情報提供の基本方針 教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に 関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。 また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部にお いて取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員·教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設·設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 (ホームページ

広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL:https://www.neec.ac.jp/public/ 令和7年9月30日 URL:

公表時期:

# 授業科目等の概要

必	折 必	自归	授業科目名	授業科目概要	配当	授	単		業方		場		教		企
	折 必	由と選			当			##	: <del>-</del>	J	++	++ 1	_		
僧	业	選			年	業	位	舑	决	<del>夫</del> 験	忟	校	専	兼	業等
11	<b>参   11</b> 9	》			次			¥	বব	•	_	L-d	ı	1-	۲
					· 学	時	釵	莪	省	<b>天</b> 習	内	<i>ያ</i> ኑ	仕	仕	の連
					期	数				• •					携
										実技					
1		0	ビジネススキル	社会進出のために必要とされる基本的なスキルを身につけます。	1· 後	30	2	0			0		0		
2 O	)		プレゼンテーション1	進路指導の一環として、自己表現や作品アピールの方法について学び、トレーニングを行	1•	30	2		0		0			0	
				います。また、自己表現のツールとして重要な	ניה										
				ポートフォリオ(作品集)について研究し、実際に作品をまとめる作業を行っていきます。											
3 O	)		プレゼンテーション2	進路指導の一環として、自己表現や作品ア	1.	30	2		0		0			0	
				ピールの方法について学び、トレーニングを行います。また、自己表現のツールとして重要な	後										
				ポートフォリオ(作品集)について研究し、実際											
				に作品をまとめる作業を行っていきます。											
4 O			デッサン1	れる観察力や基礎造形力を養います。	1· 前	60	4		0		0			0	
5 O			デッサン2 	主にデッサンを通して、デザイナーに必要とされる観察力や基礎造形力を養います。	1· 後	60	4		0		0			0	
6 O	)		美術基礎1	CGデザイナーに必要とされる美術の基礎教	1•	60	4		0		0			0	
			W / I = ++ +++ =	養を学びます。デッサンの補習を行う場合もあります					0		0				
7 0	)		美術基礎2	CGデザイナーに必要とされる美術の基礎教養を学びます。デッサンの補習を行う場合もあります	1· 後	60	4		0		0			0	
8		0	検定対策1	検定試験合格のための対策講座を行います。	1· 前	30	2	0			0		0		
9		0	検定対策2	検定試験合格のための対策講座を行います。	1· 後	30	2	0			0		0		
10 O	)		デジタル演習1		1· 前	60	4		0		0		0		
11 0			-*^* A u 2中33 A	ます。	4	00			_		_		_		
11 O	)		デジタル演習2	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	前	60	4		0		0		0		
12 O	)		デジタル演習3	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ		60	4		0		0		0		
				制作における基礎的なデジタル技法を修得し  ます。	後										
13 O	)		デジタル演習4	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ 制作における基礎的なデジタル技法を修得し	1· 後	60	4		0		0		0		
				ます。	仅										
14 O			プロジェクトワーク1	デジタル演習などで習得したスキルを活用し て個人またはグループで作品制作を行いま	1· 前	60	2			0	0		0	0	
				す。制作物は学内での講評会や、学外の展示	נים										
15 O			プロジェクトワーク2	会などで発表します。 デジタル演習などで習得したスキルを活用し	1•	60	2			0	0		0	0	$\vdash$
				て個人またはグループで作品制作を行いま	前		_			-				_	
				す。制作物は学内での講評会や、学外の展示 会などで発表します。											
16 O	)		プロジェクトワーク3	デジタル演習などで習得したスキルを活用し て個人またはグループで作品制作を行いま	1· 後	60	2			0	0		0	0	
				す。制作物は学内での講評会や、学外の展示会などで発表します。	区										
17 O			プロジェクトワーク4	デジタル演習などで習得したスキルを活用し	1.	60	2			0	0		0	0	
				て個人またはグループで作品制作を行います。制作物は学内での講評会や、学外の展示会などで発表します。	後										

18	0		デッサン3	デッサンを通してCGデザイナーに必要とされる観察力や画力を養います。	2· 前	60	4	0		0		0	
19	0		デッサン4	デッサンを通してCGデザイナーに必要とされる観察力や画力を養います。	2· 後	60	4	0		0		0	
20	0		美術基礎3	CGデザイナーに必要とされる美術の基礎教養を学びます。デッサンの補習を行う場合もあります	2•	60	4	0		0		0	
21	0		美術基礎4	CGデザイナーに必要とされる美術の基礎教養を学びます。デッサンの補習を行う場合もあります	2· 後	60	4	0		0		0	
22	0		デジタル演習5	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	/ 2· 前	60	4	0		0	0	0	
23	0		デジタル演習6	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	/ 2· 前	60	4	0		0	0	0	
24	0		デジタル演習7	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	/ 2· 後	60	4	0		0	0	0	
25	0		デジタル演習8	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	/ 2· 後	60	4	0		0	0	0	
26	0		実践実習1A	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	2• 前	90	3		0	0	0	0	0
27	0		実践実習1B	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	2• 前	120	4		0	0	0	0	
28	0		実践実習2A	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	2· 後	120	4		0	0	0	0	0
29	0		実践実習2B	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	2· 後	120	4		0	0	0	0	
30		0	キャリアデザイン1	業界研究、自己分析、ポートフォリオ制作など を進め、就職に備えます。進路に応じて必要 な作品制作を行う場合もあります。	3• 前	30	2	0		0	0		
31		0	キャリアデザイン2	業界研究、自己分析、ポートフォリオ制作など を進め、就職に備えます。進路に応じて必要 な作品制作を行う場合もあります。	3· 後	30	2	0		0	0		
32	0		表現研究1	グラフィック表現について研究します。表現力 向上のためにデッサンの補習を行う場合もあ ります	3• 前	60	4	0		0		0	
33	0		表現研究2	グラフィック表現について研究します。表現力 向上のためにデッサンの補習を行う場合もあ ります	3· 後	60	4	0		0		0	
34	0		デジタル演習9	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	/ 3· 前	60	4	0		0	0	0	
35	0		デジタル演習10	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	/ 3· 前	60	4	0		0	0	0	
36	0		デジタル演習11	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。		60	4	0		0	0	0	
37	0		デジタル演習12	多岐に渡るCGアプリについて学び、コンテンツ制作における基礎的なデジタル技法を修得します。	/ 3· 後	60	4	0		0	0	0	
38	0		実践実習3A	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	3• 前	120	4		0	0	0	0	0
39	0		実践実習3B	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	3• 前	120	4		0	0	0	0	
40	0		実践実習4A	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	3· 後	120	4		0	0	0	0	0

41	0		実践実習4B	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	3· 後	120	4		0	0		0	0	
42		0	キャリアデザイン3	業界研究、自己分析、ポートフォリオ制作などを進め、就職に備えます。進路に応じて必要な作品制作を行う場合もあります。	4• 前	30	2	0		0		0		
43	0		クリエイティブリサーチ 1	クリエイティブな制作に必要な最新技術について学び、研究・分析を行います。	4· 前	30	2	0		0			0	
44	0		クリエイティブリサーチ 2	クリエイティブな制作に必要な最新技術について学び、研究・分析を行います。	· 4· 後	30	2	0		0			0	
45	0		クリエイティブゼミ1	クリエイティブな制作に必要な最新技術について学び、それらを活用した作品制作を行います。	4· 前	30	2	0		0			0	
46	0		クリエイティブゼミ2	クリエイティブな制作に必要な最新技術について学び、それらを活用した作品制作を行います。	· 4· 後	30	2	0		0			0	
47	0		デジタル演習13	実践的な作品制作を通して、CGやアニメーションの応用的な技法を学びます。	4• 前	60	4	0		0		0	0	
48	0		デジタル演習14	実践的な作品制作を通して、CGやアニメーションの応用的な技法を学びます。	4• 前	60	4	0		0		0	0	
49	0		デジタル演習15	実践的な作品制作を通して、CGやアニメーションの応用的な技法を学びます。	4· 後	60	4	0		0		0	0	
50	0		デジタル演習16	実践的な作品制作を通して、CGやアニメーションの応用的な技法を学びます。	4· 後	60	4	0		0		0	0	
51	0		実践実習5A	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	4• 前	120	4		0	0		0	0	
52	0		実践実習5B	プロジェクトチームを結成してゲーム作品を制作するなど、実践的な実習を行います。	4• 前	120	4		0	0		0	0	
53	0		卒業制作	4年間の集大成として作品制作を行います。	4· 後	240	8		0	0		0	0	0
		•	合計	50	3 科	目		3570 183	• • •	耳	单位(	単位	立時	間)

	卒業要件及び履修方法	授業期間	等
卒業要件:	卒業時に必修科目3390時間(171単位)および選択科目60時間(4単位)以上取得し、 合計3450時間(175単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2 期
履修方法:	1年次は必修780時間、選択科目30時間以上履修すること 2年次は必修930時間履修すること 3年次は必修840時間、選択科目30時間以上履修すること 4年次は必修840時間履修すること	1学期の授業期間	15 週

# (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。